

八戸市全体のバランスシートによる分析

(単位:千円)

	普通会計 (A)	八戸市全体 (B)	連単比率 (B/A)
資産総額	247,079,887	384,546,429	1.56 倍
(有形固定資産 a)	(216,505,499)	(354,121,995)	(1.64) 倍
負債総額	109,833,256	214,456,917	1.95 倍
(固定負債)	(101,818,075)	(196,741,239)	(1.93) 倍
正味資産総額 b	137,246,631	170,089,512	1.24 倍
世代間負担比率 b/a	63.4%	48.0%	

平成17年度末の普通会計と八戸市全体のバランスシートを比較すると、資産総額は2,471億円に対し3,845億円、負債総額は1,098億円に対し2,145億円、正味資産総額は1,372億円に対し1,701億円と、それぞれ市全体の数値が普通会計のみの数値を上回っています。

主な特徴としては、市全体になった場合、比率において資産が1.56倍増加したのに対し、負債は1.95倍となっており、資産の増加に比べ、負債の増加が大きく上回っています。

これは、市全体のバランスシートに、事業を推進する上で多額の企業債に頼らなければならない下水道事業や病院事業が含まれているためです。

この結果、将来世代への負担が少ないほど比率の高いとされる「世代間負担比率」が、63.4%から48.0%へと大きく減少し、普通会計のみの場合と比べ、将来世代による負担が増えている現状がわかります。

なお、資産及び負債の太宗をなす「有形固定資産」、「固定負債」を会計別にみると、下のグラフのとおりとなります。

